

B：キャリアグループ報告

山田 孝・佐藤 俊 樹
佐光 美穂・仲田 恵 子
直井 誠

はじめに

〈意義〉

総合人間科をキャリア意識形成の中心に位置づける。併設型中高一貫校におけるキャリア意識の形成を目標に、中高6カ年の発達段階に応じてキャリア意識形成を育む学習を展開する。

〈目標〉

多くの人との出会いや多面的な学習から自分の興味・関心が何か探りながら、豊で多面的な学習環境の中で自分の学習を跡づけ、将来の自分の生き方について人や社会とのかかわりの中で、ともに学び合いながら自分自身の将来を自覚的・自立的なキャリア意識の形成を育む。

1. キャリア教育の定義を確認 (省のホームページより)

・「今後の初等中等教育と高等教育の接続の改善について(答申)」

中央教育審議会 平成11年12月16日

第1節 学校教育と職業生活の接続の改善のための具体的方策

学校と社会及び学校間の円滑な接続を図るためのキャリア教育(望ましい職業観・勤労観及び職業に関する知識や技能を身に付けさせるとともに、自己の個性を理解し、主体的に進路を選択する能力・態度を育てる教育)を小学校段階から発達段階に応じて実施する必要がある。キャリア教育の実施に当たっては家庭・地域と連携し、体験的な学習を重視するとともに、各学校ごとに目標を設定し、教育課程に位置付けて計画的に行う必要がある。また、その実施状況や成果について絶えず評価を行うことが重要である。

キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議
2004年1月28日 答申 キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書
～児童生徒一人一人の勤労観、職業観を育てるために～の骨子

第2章 キャリア教育の意義と内容

1 「キャリア」をどうとらえるか

○「キャリア」の解釈・意味付けは、それぞれの主張や立場、用いられる場面等によって多様

○「キャリア」とは「個々人が生涯にわたって遂行する様々な立場や役割の連鎖及びその過程における自己と働くこととの関係付けや価値付けの累積」

2 キャリア教育の定義

○端的には「児童生徒一人一人の勤労観、職業観を育てる教育」

○中央教育審議会答申(平成11年12月)における定義:「望ましい職業観・勤労観及び職業に関する知識や技能を身に付けさせるとともに、自己の個性を理解し、主体的に進路を選択する能力・態度を育てる教育」

○これを本協力者会議では、「キャリア」概念に基づき、「児童生徒一人一人のキャリア発達を支援し、それぞれにふさわしいキャリアを形成していくために必要な意欲・態度や能力を育てる教育」ととらえている

3 キャリア教育の意義

(1)教育改革の理念と方向性を示すキャリア教育

○キャリア教育は、一人一人のキャリア発達や個としての自立を促す視点から、従来の教育の在り方を幅広く見直し、改革していくための理念と方向性を示すもの

(2)子どもたちの「発達」を支援するキャリア教育

○キャリアが発達段階やその発達課題の達成と深くかかわりながら段階を追って形成されていくことを踏まえ、子どもたちの成長・発達を支援する視点に立った取組を推進

(3)教育課程の改善を促すキャリア教育

○各領域の関連する諸活動を体系化し、組織的・計画的に実施することができるよう、各学校が教育課程編成の在り方を見直していくことが必要

2 事例研究

・センター紀要の学習

別紙

柴田好章、安達仁美 『高等学校の総合的な学習における課題追求とキャリア形成の関わり―一名大附属「総合人間科」経験者の語りの分析―』 2004 中等教育研究センター紀要 第4号

柴田好章、安達仁美 『高等学校の総合的な学習における個人追求課題の形成過程—名大附属「総合人間科」の実践研究—』 2003 中等教育研究センター紀要 第3号 [2]

3 キャリア研究会

・寺田先生の都合に合わせて実施する予定

4 総合人間科と行事の見直し

・キャリア形成との関係で学年テーマを考えると
中学3年と高校2年が研究旅行・修学旅行の関係で無理があるのでは。
この機会に研究旅行の旅行先を検討してみる

案 高校総合人間科の見直し案

高校1年 従前通り 中核(コア)は自然科学リテラシー入門基礎講座
大学との連携強化

高校2年 総人テーマの変更
高校1年の「生命と環境」の継続
中核(コア)は自然科学リテラシー応用講座

- 自然科学コース 新教科群とリンク
 - 研究旅行
- 社会科学コース
 - 研究旅行(沖縄)
 - 海外(発展途上国等)

高校3年 従前通り

新教科とのリンクについては、カリキュラム全体との関係を検討する必要がある
総合人間科の変更は、学年プロジェクトの変更を伴う場合は準備の時間要する

案 新・総合学習コースデザイン

キャリア・ナビゲーション(仮題)

【基本的な考え方】

- ・SLPI、II等をSSHに特化したものにするかわりに、キャリア教育の分野を引き受ける科目とする
- ・授業時間数が少なくても実施できるようにするために、学校行事とは分離する
- ・学年団による指導体制を崩さない
- ・中学、高校のそれぞれの3年間で完結するコースとする

【6年間のコースデザイン案】

中学 調査、探究活動の方法論を学ぶ

中一 「自分の好きなこと」

個人の興味関心のあることについて、徹底的

に文献調査をする

図書館利用教育、ネット検索

中二 「世の中のしごと」

世の中にどんな職業があるのか、就職には何が必要かを調査する

身近な社会人にインタビューをする

文章の形で研究内容をまとめる

中三 「しごとと自分」

自分の興味関心、適性と職業の関係を考える
将来の生き方を考える

職場体験

高校 自己の進路決定に関わった調べ学習を行う

高一 「なりたい自分をデザインする」

R-cap

将来の自己像をイメージし、興味のある職業(学問分野)を調べる

高二 「未来を一足先に体験する」

進路希望に応じた専門的なテーマを決め、文献調査を行う

自分の希望する職業・学問分野で活躍する人にインタビューする

高三 「未来を手にする」

高二から引き続き、テーマ探究活動を続ける
夏休みなどにオープンキャンパスに参加する

5 キャリア教育での教科での可能性について

国語科 「職業における言語表現」などが考えられる